

次期長野県食と農業農村振興計画 骨子案に対する 地区部会及び関係団体等からの意見・提言について

全体を通じて

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
県民に理解・評価されるだけでなく、日本全体の農業を国民全体に正しく理解・評価されてほしい	長野県農業経営者協会	「well-beingを実現する信州の農村」などを含め、計画の記載は誰にでも分かりやすい表現とすべき	上田
県だけではなく、市町村も10年後のめざす姿を検討すべき	長野県農業経営者協会	関係機関だけでなく、様々な分野の多くの人に伝わる計画にしてほしい	長野
内容が漠然として重点が見えづらいので、濃淡・メリハリをつけるべき	PAL ネットながの	長野県の特徴を生かした「めざす姿」をもっと表現できないのか	上伊那
第3期計画までの取組の成果を明確に示してほしい	PAL ネットながの	SDGsのアイコンを表示した方がよい	松本
施策と現場のギャップが大きいので、行政と農業者がもっとコミュニケーションをとるべき	PAL ネットながの	食料安全保障の観点から、県民に農地を守るという意識を持ってほしいため、「県民の役割」に「農地の保全」を盛り込めないか	諏訪
基本理念は第3期計画から大きく変える必要はないのではないか	農業開発公社・農業会議	異常気象に対応する施策も必要	上伊那
他部局や関係団体と連携し、尖った施策を5個程度示した方がよい	農業開発公社・農業会議		

I 産業としての農業振興（皆が憧れ、稼げる信州の農業）（仮）

1 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
兼業農家を育てることが急務	長野県農業経営者協会	後継者が親の姿を見て希望を持てるような魅力ある農業を目指してほしい。経営継承した後の支援制度の拡充が必要	佐久、上田、南信州、木曾、松本、長野
昔に比べ所得が下がり、農業に魅力を感じなくなった。兼業+αの環境づくりが必要	長野県農業経営者協会	給料が安定し休暇もある雇用体制であり、就農したくなる企業的经营体を育成し、地域の農地の受け皿となることも期待	佐久南信州
めざす農業の姿に「子どもたちが憧れ、将来の職業に選ばれ」とあるが、3年後や5年後に何を指すのか、ロードマップを示すべき	PAL ネットながの 長野県青果卸売市場連合会	新規就農者の経営安定までの間、農業機械のリース制度の充実や簡易的な基盤整備など、支援制度の柔軟な運用を図り、めざす支援体制を示す必要	長野北信
若手を継続的に育てる覚悟が必要であり、一人前になるまでの手厚い補助が必要	長野県農業経営者協会	地域計画の策定支援に関し、農業委員と農地利用最適化推進委員の役割が重要なので、連携を深めてほしい	佐久
最低限の生活ができる程度までは、若手農業者を育てることが最重要	長野県農業経営者協会	担い手へ栽培環境の良い農地集積を進める必要	長野
後継者確保のため、農業で周年の所得を得ることは重要であり、他業種と組むことが必要	長野県青果卸売市場連合会	荒廃農地は山に戻して緩衝帯の整備など林務サイドと連携してほしい	佐久
様々な人に合わせた就農支援が重要であり、持続可能な農業につながる	長野県青果卸売市場連合会	子どもたちが憧れる農業の姿のイメージを明確にすべき	上田

1 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保（続き）

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
農業に興味・関心を持ち、 職業選択 の時に農業を検索してもらうためには、小さい頃から 農業が身近にあって体験 することが重要	農政部 若手職員	持続可能な農業 を目指すため、担い手の確保育成は必要であり、その手段の一つとして DXやスマート農業の推進 を図っていく必要	上田 松本
農業は、「職業」というよりも、「家業」というイメージが強く、 学校での食育や体験だけでは、「職業としての農業」との接点としては不十分	農政部 若手職員	法定化された人・農地プラン（ 地域計画 ）の対応として、特に土地利用方法の把握が重要（後継者がいない農家の個人対個人での解決は限界）	上田 上伊那 木曾 北アルプス
今の 若い世代 はチャレンジ精神よりも 安定志向 が強く、農業をビジネスとして起業してまでやろうとは思う人は少ないのでは	農政部 若手職員	新品目導入や産地化に向けた リーダーの育成 と、栽培指導者を充実してほしい	北アルプス
稼げる農業を横にひろげるため、 リーダー の育成が重要	長野県青果卸売市場連合会	規模拡大や集約的栽培、 農地集積 の方向性は避けて通れないため、効率的生産につなげることが重要	上田
労働力の確保 は産地任せではなく、行政が5年、10年先を見据えた戦略で臨むべき	長野県青果卸売市場連合会	営農型太陽光発電施設 を目的とした 農地転用 に対しては様々な意見があるので、県レベルでの議論が必要	北アルプス
新規就農希望者 に対し、経営者としての就農か、法人雇用で週休二日制で働くのか、 その人に合った就農の提案 が重要	長野県青果卸売市場連合会	兼業や自給的農家の営農継続に向けて、 小規模農家 が地域の農業振興の一翼を担っている、地域を守っていくという実感が持てるよう支援してほしい	諏訪 南信州 松本 北アルプス
農業参入に意欲のある企業 に対し支援してほしい	長野県青果卸売市場連合会	後継者問題 は解決できておらず、具体的な解決策を示すことが必要	上伊那
小さい農地 で少量多品目栽培を始める人も多く、農地や機械の取得に対し支援してほしい	長野県青果卸売市場連合会	新規就農者の確保 のため、 稼げる農業を確立し、長野県農業の魅力 を分析し、 しっかり伝える・発信 することが重要	上伊那 松本
多様な人材の活躍では、 外部人材を受け入れる農村集落側の体制づくり が一番大事	農業開発公社・農業会議	園芸品目で、廃園予定者と新規参入者の マッチング や情報連携を密にほしい	上伊那
農業構造の分析では、 中核的経営体の経営状況 を調査してほしい	農業開発公社・農業会議	職業として農業 を選択できるよう 中高生へのアプローチ も必要	南信州 木曾
「皆が憧れる信州農業」より「 誇りとやりがいを持って取り組める信州農業 」の方がよいのでは	農業開発公社・農業会議	労働力の確保 に向け、地元の子もたちに農業の魅力を伝えることや、冬季の観光産業と夏季の農業の マッチング システムの構築など、施策展開や達成指標を設定して取り組む必要	南信州 北アルプス 北信
今後、 農業法人 を大切にしていかないと、農業の受け皿がなくなり、目標と現実が乖離する	長野県農業法人協会	定年帰農の推進 により荒廃農地の減少につながるのではないかと	南信州
組織的に営農する 法人経営体 を育成する長野モデルを構築してほしい	長野県農業法人協会	農業参入の企業や法人 に支援してほしい	南信州
若者にハードルの高い施策を強いるのではなく、 法人就農して会社の中での育成 に対して支援してほしい	長野県農業法人協会	中山間地 での定年帰農や半農半Xの人が取り組みやすい環境（農地貸借システム等）の整備が必要	木曾
農業は、まだ 3K（きつい、汚い、危険） のイメージが強い。 イメージを変える情報発信の工夫 が必要	農政部若手職員	地域おこし協力隊 が就農し担い手になる支援体制の確立が必要	木曾
今の若い世代はテレビよりも YouTube を観る機会が多く、動画による発信が効果的	農政部若手職員	農村生活マイスター の活動紹介などの周知が必要であり、会員も減少する中、根本的な制度の見直しが必要	松本
		「みどりの食料システム戦略 」は直接的に明記して進めたほうがよいのでは	長野

2 「稼げる農業」の創出と持続的な信州農畜産物の生産

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
シャインマスカットの成功事例のような ブランド化 を県試験場にお願いしたい	長野県農業経営者協会	地域の 複合経営品目 の新しいモデルの構築や、 稼げる品目の組み合わせ 、 中山間地 で就農促進につながる新たな品目などの提案をしてほしい	佐久 南信州 木曾
「 高品質 」と「 人・環境に配慮 」は 相反する のではないかと	長野県農業経営者協会	水田から畑地への転換促進を進めるべきであり、排水改善も必須	上田
持続可能性やSDGsなどのキーワードを 農業者まで落とし込む ことが重要	PALネットなどの	長野県は単位面積当たりの農業産出額が大きく、「 稼げる信州の農業 」の表題どおりに施策展開してほしい	上田
国の 有機農業推進 の方向性に、県も賛同するかどうかは慎重に検討すべき	PALネットなどの	地球温暖化 の影響による栽培適地の変化に合わせた リンゴ産地 の再構築	北アルプス
みどりの食料システム戦略 について 生産現場の意識を高める 必要がある	長野県農業協同組合中央会	5～10年後にぶどう が現状と同じ状況だとは思えない	上田
有機農業は売り場を確保 しないと売りづらい	長野県農業協同組合中央会	稼げる農業の提案として、生産者、関係機関が一丸となり、 日本なしの産地再生プロジェクト に取り組みたい	南信州
値ごろ感 もブランドとして重要なので、「 消費の実態を把握し、求められるものを生産 」することを目指すべき	長野県青果卸売市場連合会	地球温暖化 の影響により、市田柿などを5～10年後にうまく作れるか不安であり、より一層の 技術向上 や 試験研究 が必要	南信州 松本
農業はつらい というイメージを 変える ことが重要	長野県青果卸売市場連合会	みどりの食料システム戦略 の実現に向けた具体的な施策展開を示してほしい	木曾
ぶどう は全農長野と連携して オリジナル品種 を栽培拡大すべき	農業開発公社・農業会議	加工用の需要 や、 低価格の需要 に対する 試験研究 を先行して取り組んでほしい	上田 松本
有機農業 の面的拡大のため、農業試験場で試験研究を始めるべきであり、そのための人と予算を付けるべき	農業開発公社・農業会議	移住者が長野県で農業やれば稼げるような 品種・技術開発 を進めることが重要	上伊那
有機農業 や 温暖化 に関する試験研究は、県として、どこまで進めるのかは はっきりさせる こと	農業開発公社・農業会議	新品種の育成 において、産(農)学連携をコーディネートしてほしい	上田
外国人材 が来なくなる場合を想定し、 レタス収穫機 などの 機械化 は 必須	農業開発公社・農業会議	「 マイクロプラスチック 」への対応についても記載すべき	上田
1人当たりの経営面積が増加し、大型機械を導入できるように、 基盤整備 は早く進めてほしい	長野県農業経営者協会	「 魅力ある漁場づくり 」として「 外来魚の駆除 」を加えてはいかがか	上田
小規模農家が減少し、 水路の保全管理 の出役が困難になるので、 パイプライン化 は必要	農業開発公社・農業会議	ICT技術、 スマート農業 の更なる普及推進が必要	木曾
		農業水利施設 の計画的な更新や、災害に備えた自動開閉水門等の整備のため、 土地改良区への支援 を期待。併せて、農業用水路の歴史や重要性について、 広報 や 小学校での社会学習 も 重要	上田 上伊那 松本 長野
		農地の荒廃化防止 のため、用水路の整備や「 そば 」の振興が必要	木曾 長野
		果樹ほ場の基盤整備 を進め、担い手への集積が必要	長野

3 実需者ニーズに対応した県産農畜産物の販路開拓・拡大

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
「食料自給率の向上」と「輸出力の強化」とは相反する方向性。5年先を考えると、輸出は相応しくない	長野県農業経営者協会	コロナ禍のWeb商談会は非常によい取組なので、今後も一層取り組んでほしい	佐久
国内の消費動向をみると、少なくとも果樹は海外の需要を考え、輸出に取り組まなければならない	長野県農業経営者協会	多様なニーズを具体的に分析し、買い手側のニーズに沿った新たな需要の創出の取組や、J A・市場と連携した販売の取組を充実してほしい	佐久 上田 松本
「フードプラットフォーム」を提案しており、循環型社会の構築など総合的に施策を展開する必要	長野県青果卸売市場連合会	輸出米の取組を進めていきたいので、販路開拓などを支援してほしい	佐久
荷を集められない産地も出てきており、2～3年先には「物流」の課題が表面化してくる	長野県青果卸売市場連合会	「おいしい信州ふード」の価値を高め、「消費者が求める価値」に合わせる事が重要	上田
輸出は営業局や輸出事業者と連携して拡大すべき	農業開発公社・農業会議	県民も知らないの、県オリジナル品種のPRを強化してほしい	上田 松本
「おいしい信州ふード」の扱いをどうするのか	農業開発公社・農業会議	輸出向けの産地づくりの取組が急務	上田
		6次産業化やLFP（地域食品産業連携プロジェクト）の人材育成が必要	上田
		農産加工は原材料を契約栽培で依頼しないと調達が困難なので、原材料の確保にも目を向けてほしい	南信州
		農産加工施設の高齢化や担い手不足が解消し、加工施設の継続が必要	長野
		輸送コストが販路拡大のボトルネックなので、農産物の単価をベースアップした上で、解消する必要	松本
		J A集出荷施設の老朽化が進んでいるため、再編整備が必要	長野

II 暮らしの場としての農村振興（well-beingを実現する信州の農村）（仮）

1 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
新型コロナで減少した修学旅行の代わりに農家民泊で農業体験に来てもらうよう観光分野と連携して進めてほしい	長野県農業経営者協会	中山間地域は、国土保全や多面的機能の面からも重要であり将来の姿を明記すべき。土地利用型経営体の共同利用機械の導入も支援してほしい	北信
「住みたい農村」の理想の状態、めざす姿のイメージを明確にすること	農業開発公社・農業会議	多面的機能直接支払事業は事務の簡素化をしてほしい	南信州
		農業散布すると一般住民から苦情が寄せられる。営農と居住の共存は解決しなければならない難しい課題	松本
		観光農園の拡大と、誘客する体制の構築が必要	北アルプス
		都市農村交流、移住促進などのため、地域振興局段階で分野横断の地域振興策の検討が必要であり、特に農村づくりは観光分野との連携が必要	北アルプス 北信

2 安心安全で持続可能な農業・農村の基盤づくり

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
災害対応も考えると、「安心して住み続けられる農村」の方がよいのでは	農業開発公社・農業会議	鳥取県智頭町の「疎開保険」の取組は今後の農村振興の一つのモデルと考えるので、参考にされたい	上田
		自然災害に強い農業を目指すべき	上田 松本
		野生鳥獣被害は、林業の衰退とも関係しており、里山森林整備や山際のインフラ整備を一体的に進める必要	北信

Ⅲ 生産と消費を結ぶ信州の食の展開（魅力あふれる信州の食）（仮）

1 食の地産地消などエシカル消費の推進

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
地産地消において、長野県だけで生産物を全て消費することはできないので、消費の輪を広げることが重要	長野県農業経営者協会	地産地消を進めることで農村景観が守られることの認識・理解を促進することが重要	松本
県内企業において県産品への置き換えの促進が必要	長野県農業協同組合中央会	エシカル消費の推進により、若い世代の「作る人」と「消費する人」への意識が向上することや、お互い顔が見える関係を築ければ、農家の熱意につながることを期待	上田 北信
長野県の強みは首都圏に近いことであり、すべて地産地消にもっていくのはいかなものか	長野県農業経営者協会	エシカル消費（及び食品ロス）を県民に広く浸透させるための具体的な方法を検討してほしい	上田 上伊那
アメリカでは、高価格な有機農産物の方が購入されており、消費者の意識へのアピールが重要	長野県青果卸売市場連合会	農産物直売所の運営者によって、売上や魅力に大きな差がある。高齢化に伴う担い手確保・事業継続のための支援が必要。また、地産地消・食文化のPRの場として食の提供も必要ではないか	上田 木曾 北信
サーキュラーエコノミーを柱建てした方がよいのでは	農業開発公社・農業会議	道の駅（農産物直売所）のマップの作成や旬の情報を提供してほしい	佐久
子どもが憧れる職業に向けて、学校給食での県産農産物の利用率を上げるべき	農業開発公社・農業会議	農産物直売所間の交流促進や市場との連携により販売機能の強化に取り組むべき	上田 上伊那
		学校給食で地域食材を安定的に使うため、発注・集荷・生産を一貫して担う人を配置して実現できないか	南信州
		学校給食の県産食材の利用率を更に高め、日本一を目指すべき	長野
		学校給食で有機農産物の利用拡大の取組は重要	松本

2 次代を担う若者への食の継承

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
県立大学やプロスポーツチームと組んで農業体験をさせるべき	農業開発公社・農業会議	伝統野菜や伝統食文化のPRを強化すべき	上田
		伝統野菜等の産地維持のため、若い担い手への栽培方法等の伝承と栽培情報等の供給をすべき	木曽
		めざす姿として、「日常的な産官学連携により、食育・農育が実施されている」はいかがか	上田
		市町村やJAの協力で、農業者が楽しく参加できるイベントや情報提供により食育・農育を進めてはどうか	諏訪 北アルプス
		男女問わず、食の伝承等、未来を描けるような学習の場の提供が必要	北アルプス
		ウィズコロナ(アフターコロナ)の食育・農育の新しい方法の検討が必要	上伊那
		農業体験のメニューと受入地の拡大、異業種交流イベントなどの他分野との連携は食育・農育に有効	北アルプス
		消費者グループも一緒になって、子育て世代、若い人に計画をもっと伝えて、農業には課題があることも正直に伝えてもよいのでは	長野
		学校給食への県産食材の提供を通じ、子どもに食への関心、食の大切さを啓発する必要	長野 南信州

共通視点：「持続可能」・「DX」・「食料安全保障」

意見・提言	関係団体等	意見・提言	地域
食料自給率と減反政策は相反しているのでは	長野県農業経営者協会	農業資材価格の高騰により、持続可能な農業が継続できるか心配なので、価格高騰対策を盛り込んでほしい	佐久、木曽
		資材価格高騰対策として、価格転嫁に対する消費者の理解や危機感等を促すことも必要	上伊那
		食料安全保障は避けて通れない課題であり、食料危機への不安が農業・農村に対する感謝につながるきっかけになってほしい	上田
		国産小麦の増産など国内自給率(県内自給率)の向上の施策について記載してはいかがか	上田、南信州
		DXを推進し、若い担い手が「つらくない農業」を認識できることが理想	上田